

# 「地域の特性や既存資源を活かした持続可能なビジネスを考える」

担当教員名 金藤 正直

## コース概要

日程	2017年8月21日（月）～24日（木）
場所	青森県津軽地方（弘前市、板柳町など中南地域）
参加人数	31名

## コースのねらい

りんご生産量が日本一である青森県には、りんご産業の基盤組織（自治体、研究機関、農家、製品・加工、流通・販売など）が数多く存在しています。これらの組織は、それぞれが連携し、商品開発や販路開拓・拡大などを行っています。また、県内では最近、桃、ぶどう、在来種の野菜など、新たな

## 内容

今年度のFSでは、昨年度と同じように初日（21日）から弘前実業高等学校（弘実）の高校生10名に参加してもらい、事前学習時に編成した7つの高大連携チーム（生産・加工、広告・宣伝、農家（生産者）、販売、流通、観光、自治体）で、訪問先での学習とそれに基づく調査を行いました。

まず初日は、津軽ゆめりんごファームと弘前大学を訪問しました。最初の訪問先である津軽ゆめりんごファームでは、平井氏から、農産物の生産や加工・販売、そして、現在力を入れている観光農園の取組みに関するお話を聞きました。その後、同ファームにある桃、プラム、ブルーベリーの農園にも行き、もぎ取り体験も行いました。次の訪問先の弘前大学では、人文社会科学部の黄先生による国内外や青森県内のりんご産業や市場の現状に関する講義を受講した。初日は、以上2カ所の訪問先において、日本におけるりんご産業の現状を理解でき、また、最終日（24日）に報告するビジネスモデルを考えるヒントを得ることができました。大学での講義後、弘実に移動し、高校生・教員と大学生・教員で今回のFSの目的や取組内容などを共有するために交流会を開催しました。

次に、2日目（22日）は、板柳町に行き、津軽りんご市場、板柳町ふるさとセンター・りんごワーク研究所、monoHAUS（モノハウス）を訪問しました。津軽りんご市場は、日本で唯一りんごのみの市場（産地市場）であり、そこでは、市場内の見学

を行うとともに、市場で行われている現在の取組みに関するお話を聞きました。次に、板柳町ふるさとセンター・りんごワーク研究所では、葛西所長や會津氏など多くの関係者から、同町におけるりんご産業とそれを支える組織（町営の生産・加工・直売所）同士の関係、また、現在も業績をあげているりんごワー

な農作物にも力を入れ、りんご産業のような組織間で連携しながらビジネスを展開しています。このフィールドスタディ（FS）では、現地の高校生とともに、青森県津軽地方の農作物を活かしたビジネスに注目し、それに関連する組織や関係者への調査（半構造化インタビュー）結果や「まち」の歴史・文化・特性を踏まえて、①りんごや他の農作物の産業の歴史、②りんごや他の農作物の産業に関わる組織とその役割、③組織間での連携事業（ビジネスモデル）の現状と課題、④その課題を解決し、将来展開すべき地域活性化のためのビジネス提案を行いました。



桃のもぎ取り体験



りんご産業のレクチャー



市場内でのりんごのせり 木箱ビジネスのレクチャー



町営りんご事業のレクチャー

ク研究所のビジネスモデルの特長について学習しました。最後に、monoHAUS では、姥澤氏から、りんごの木箱を活かした商品開発とともに、現在研究中である木箱がもたらすりんごへのより良い影響に関するお話を聞きました。2 日目の訪問先は 1 カ所でしたが、町レベルでりんごを中心とした産業をさらに活性化させていくための方法を学習することができました。

続いて、3 日目（23 日）は、弘前市りんご公園と岩木山麓しらとり農場を訪問しました。まず、弘前市りんご公園では、りんご農家の高橋氏から 6 次産業化（シードル製造・販売）の現状と課題、また、野呂先生から県内におけるりんご産業の歴史とりんごの特性に関する講義を受講し、その後、園内の見学とともに、りんごのもぎ取り体験を行いました。次の訪問先である岩木山麓しらとり農場では、農場内の見学と、農場でとうもろこしを食べながら、白鳥氏から農場の歴史、在来種の野菜の可能性、農業のビジネスモデルの基礎となっている CSA（地域支援型農業）のお話を聞きました。3 日目は以上 2 カ所に訪問しましたが、県内のりんご産業の現状や課題、そして、大学の授業では十分に触れることができない 6 次産業化や CSA の特長と実践例を学習することができました。



シードル製造・販売のレクチャー



りんごのもぎ取り体験



CSA に関するレクチャー

最終日（24 日）は、弘前大学の内藤先生にも参加いただき、弘実において 7 つの高大連携チームによる持続可能なビジネスモデルの報告会を開催しました。この報告会では、各チームは、事前学習および 3 日間の学習に基づく研究・調査報告を行い、



打ち合わせの様子



報告会の様子

また、それに対する議論・意見交換を通じて、地域特性と既存資源を活用した県内で将来新たに展開すべきビジネスモデルと、その実用可能性を提案しました。その後、内藤先生より各チームの順位が発表され、最後に、弘実の山口先生の総評で報告会が終了しました。

## 学習を終えて

今後の FS も、これまでの取組みでの反省点とともに事後学習で参加学生が行った自己評価の内容も踏まえて、将来必要とされる新たなビジネスを展開できるモデル構築を目指してもらえるコンテンツにし、参加学生（および高校生）により有効的な学びを提供していく予定です。最後に、今回の FS に参加した学生の感想を紹介します。

### 1) 参加学生の感想①

これまでの経験を活かして、この時期一番良い「りんご」を全国の消費者に届けたい、というりんご産業に関わっている方々の強い思いを感じることができました。

### 2) 参加学生の感想②

FS での学習を通じて、チームビルディングがうまくいったので、メンバー間で合意を得ながら、りんご産業の課題とその解決策を話し合い、報告することができました。



FS 参加者全員の写真